

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|----|------------|--|---|-----------------|
| A | G | activity | アクティビティ WBSを構成する作業であり、インプットから中間成果物または要素成果物としてのアウトプットを生成する。 | GUTSY-4はWBSとして、5桁の番号が付いたアクティビティを各フェーズにおいて定義している。たとえば、フェーズ I のWBS106は、8個のアクティビティから構成されている。 | |
| B | | BABOK | ● Business analysis Body of Knowledge カナダのIIBA(International Institute of Business Analysis)が開発したビジネスアナリスト(Business analyst)のための知識体系。 | | |
| B | | BPM | ● Business Process Management 経営目標を達成するために、ビジネスプロセスの可視化と設計・開発(Plan)、実行(Do)、モニタリング(Check)、改善・再構築(Action)のPDCAサイクルにより、ビジネスプロセスを構築・改善する経営手 | | |
| B | | BPMS | ● Business Process Management Suite or System BPMにおいて利用されるソフトウェア群であり、プロセスモデリング、プロセス実行、モニタリングなどの機能を持つ。 | | |
| C | | CEO | chief executive officer 最高経営責任者のこと。企業戦略の策定、経営方針の決定といった長期的な経営事項に関わる責任を負う。 | | |
| C | | CFO | Chief Financial Officer 最高財務責任者のこと。企業の資金調達・運用といった財務面と経理面に関わる責任を持つ。 | | |
| C | | CIO | chief information officer 最高情報責任者のこと。経営戦略に沿った情報戦略やIT投資計画の策定などに責任を持つ。 | | |
| C | | CMMI | Capability Maturity Model Integration 米カーネギーメロン大学ソフトウェア工学研究所が公表したソフトウェア開発プロセスの改善モデルとアセスメント手法であるCMM(Capability Maturity Model)に、有識者の意見や多くのプロセス改善事例を反映させて作成された新しい能力成熟度モデルのこと。 | | |
| C | | CMO | Chief Marketing Officer 最高マーケティング責任者のこと。マーケティングに関する全社的な責任を持つ。 | | |
| C | | COO | chief operating office 最高執行責任者のこと。CEOによって決められた戦略などを実施することに責任を持つ。 | | |
| C | | CSF | ● critical success factors 目標・目的を達成する上で決定的な影響を与える要因のこと。 | | 主要成功要因 |
| C | | CTO | chief technology officer 最高技術責任者のこと。自社の技術戦略や研究開発方針を立案、実施することに責任を持つ。 | | |
| E | | ERP | Enterprise Resource Planning 企業統合資源管理のこと。企業にあるヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を有効に活用し、企業の経営をより効率的に行うこと。 | | |
| E | | ERPパッケージ | ERPを実現するための統合型パッケージソフトウェアのことであり、財務、人事、生産、調達、在庫、販売などの業務を統合している。 | | |
| I | G | IT環境 | ○ | IT資源、データ、そしてITサービスの開発体制や運用・提供体制 [ITコーディネータ協会の定義]。 | |
| I | | IT系プロセス | IT process or IT-related process ビジネスプロセスのうち、業務専用のITシステムを利用するもの。 | | システム系プロセス |
| I | G | ITサービス | ○ | ユーザがビジネスプロセスを実行する際に、ITシステムがその構成要素を組み合わせ提供して提供するサービス。ITサービスは自動化と情報化に大別できる。 | |
| I | G | IT資源 | ○ | ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、設備、ソリューション(アプリケーションソフトウェア)など、ITシステムを構成する資源 [ITコーディネータ協会の定義]。 | ITインフラストラクチャー |
| I | G | ITシステム | ○ | IT環境とユーザへのITサービスから構成され、ユーザがビジネスプロセスを実行する際に、これを支援するITの仕組み。 | 情報システム ITモデル |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|----|---------------|----------------------|--|---------------|
| I | G | ITシステム課題 | | 現状のIT環境やITサービスに関する課題。これらは、情報システム部門において実行されるビジネスプロセスによって把握されていない。なければならない。 | |
| I | G | ITシステム戦略 | IT Strategy | ビジネスモデルを実現するためなど、ITシステムの整備や利用に関する中長期的な方針のこと。 | 情報システム戦略 |
| I | G | ITシステム化方針 | | IT環境(IT資源、データ、ITサービスの開発体制や運用・提供体制)に関する方針であり、企業の標準としての方針、および個別プロジェクトとしての方針がある。 これには、プラットフォーム構成、セキュリティ管理、ソフトウェア開発・導入、運用・保守、ユーザ教育、マスタ・データ移行、各種テスト、業務移行、ユーザ利活用、などに関する方針がある。 | |
| I | G | ITシステム戦略企画書 | ○ | 新IT環境案と新ITサービス案の実現について、目的、ITへのビジネス要求(詳細)、ロードマップ、概算レベル(精度±10~20%)の費用・効果、この実現のためのプログラム計画や個別プロジェクト計画を取りまとめたもの。 | |
| I | G | ITシステム戦略構想書 | ○ | ITへのビジネス要求(概要)の実現について、そのロードマップや超概算レベル(精度±20~30%)の費用・効果をしめしたものの。 | |
| I | G | ITシステム導入計画書 | ○ | IT要求モデル(概要レベル)の定義について、そのプロジェクト計画、詳細レベル(精度±5~10%)の費用見積を含む。 | |
| I | G | ITシステム導入実行計画書 | ○ | IT要求モデル(詳細レベル)の定義について、そのプロジェクト計画、ベースライン見積り(精度±5%)の費用見積を含む。 | |
| I | | ITシステム分析 | ○ IT system analysis | ITシステム開発・導入の最上流の工程で要件定義とも呼ばれる。その前半はIT要求を確認するという「要求分析」、後半はそのIT要求からの「ソフトウェア要求仕様の定義」となる。後半ではITソリューションに対する実現方式を分析する。 | 要件定義 |
| I | | ITソリューション | ○ IT solutions | ITへの要求に対する技術やソフトウェアなどの実現方法。例)個別開発、パッケージ導入。 RFPを発行して、ITベンダーからのITソリューションに関する提案を評価して、最適な実現方法を選定する。 | |
| I | G | ITビジネス要求定義 | | GUTSY-4では、プロセス改革要求の一環としてITビジネス要求を定義する。 | |
| I | | IT要求 | | ビジネスプロセスに対して、ITによって支援して欲しい機能。「IT要求定義」工程において、定義できる。 | ITへの要求 |
| I | G | IT要求(概要レベル) | ○ | ITシステム調達のための「粗過ぎず、細か過ぎない」要求モデルのこと。フェーズⅢにおいて、レベル4ビジネスプロセスから定義して、RFPに記載してITベンダーからの詳細レベル(精度±5~10%)の見積りを得る。 | 概要レベルのIT要求モデル |
| I | G | IT要求(詳細レベル) | ○ | IT導入のための「ある程度、詳細な」要求モデルのこと。フェーズⅣにおいて、概要レベルのIT要求モデル、またはレベル5ビジネスプロセスから定義して、IT導入実行計画書のためのベースライン見積り(精度±5%以下)を得る。 | 詳細レベルのIT要求モデル |
| I | | IT要求スコープ | | どこまでのIT要求を調達、開発・導入に含めるかの範囲。 | |
| I | | IT要求モデル | | ビジネスプロセスからITシステムへのITサービスへの要求を定義し、モデル化したもの。 GUTSY-4では、次の4種類がある。 ・レベル2 ITビジネス要求(概要) ・レベル3 ITビジネス要求(詳細) ・レベル4 ITユーザ要求(概要レベル) ・レベル5 ITユーザ要求(詳細レベル) | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|---------------|--|--|--|--------------------------|
| I | ITビジネス要求 | ● business requirements for IT | ビジネスモデル(事業戦略)の実現や業務課題の解決などのための、経営面からのITへの要求。構想レベルのものと、企画レベルのものがある。 | GUTSY-4では、ITビジネス要求について、概要と詳細の2種類を定義する。ITビジネス要求(概要)は、事業戦略の一環としてITシステム戦略を策定しようという場合に定義する。そして、ITビジネス要求(詳細)からはITシステム企画を立案する。 | ITへのビジネス要求 |
| I | ITユーザ要求 | ● | →ユーザ要求 | GUTSY-4では、ITユーザ要求について、概要レベルと詳細レベルの2種類を定義する。 | ITへのユーザ要求 |
| I | G ITモデル | IT models | | コンピュータとネットワーク関係のインフラ、データベース等のコンテンツ、アプリケーションシステムによるITサービス含めた総称。 | ITシステム |
| M | MDA | model driven architecture | モデル駆動開発のこと。CIMとPIMによって定義されたモデルをインプットとしてPSMによって、プラットフォームに沿ったソフトウェアを自動生成する。 | | |
| M | MECE ミッシェー | ● Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive | もれず重複しない論理的思考法のこと。もれると的外れになり、重複すると非効率になる。このため、マーケティングの4P、PPM、などの定評あるフレームワークやプロセス参照モデルを利用する。 | | |
| P | PMBOK | Project Management Body of Knowledge | 米国PMI(Project Management Institute)が開発した一般的なプロジェクトマネジメントのための知識体系。 | | |
| R | RFI(情報提供依頼書) | Request for Information | ユーザ企業からITベンダーに対して、提供可能なITソリューションに関する情報を提供してくれるよう要請する書面。 | | |
| R | RFP(提案依頼書) | Request for Proposal | ユーザ企業からITベンダーに対してITソリューションを提案するよう要請する書面。RFPには、レベル4要求(ビジネス要求とユーザ要求)をもとにした、ユーザ企業としての様々な要求が記述されている。 | | |
| S | SCOR | Supply Chain Operation Reference Model | 米国サプライチェーンカウンシルが発表しているサプライチェーンの計画、調達、生産、出荷に関する標準的なプロセスモデルのこと。 | | |
| W | WBS | work breakdown structure | WBSは、インプットから要素成果物としてのアウトプットを生成する。基本的にはビジネスプロセスと同じであるが、WBSはプロジェクトとしてアドホックであることの特徴がある。 | GUTSY-4はWBSとして、3桁の番号が付いたワークパッケージを各フェーズにおいて定義している。たとえば、フェーズ I は、19個のワークパッケージから構成されている。 | |
| い | 移行要求 | | 現在の状態から、企業の望む未来の状態への移行を円滑に進めるために、ソリューションが備えておくべき能力を記述した要求。この能力は、移行の完了後には不要となる。[BABOK] | | |
| う | 受入適合基準 | prequalification guideline | IT要求が実際に満たされたかどうかをユーザーが受入れ検証するための客観的な基準のこと。これは、ユーザーによる運用テストにおけるテスト仕様、すなわち検収基準となる。 | | |
| か | 階層性 | ● | 全ての人工物(書籍、プロジェクト、組織、ビジネスプロセス、建造物など)は階層性の構造を持っている。 | | |
| か | G 概要レベルIT要求 | | | レベル4プロセスからITユーザ要求を引き出したもの。したがって、レベル5ITユーザ要求よりも概要的になっている。さらに通常は、このレベル4プロセスには、ITビジネス要求が反映している。 | 概要レベルITユーザ要求 レベル4IT要求 |
| か | 課題 | | これによる悪影響が顕在化はしていないが、将来的に解決しなければならないテーマ。一方、問題はすでに悪影響が顕在化している。 | | |
| き | 機能要求 | | 機能的なITサービスへの要求のこと。たとえば、インプットデータのチェックや業務ルール適用の自動化など。 | | |
| ぎ | G 技法 | techniques | | GUTSY-4のWBS・アクティビティに備わっている説明、技法、ツール、リファレンス、事例の総称。 | |
| ふ | G 業務改革構想書 | | | フェーズ I のアウトプット。業務改革モデルの実現について、目的、業務改革後のレベル2ビジネスプロセス、ロードマップ、超概算レベル(精度±20~30%)の費用・効果をめしめたもの。 | 業務プロセス改革構想書 |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|----------------|--------------------------------|---|--|-------------|
| き | G 業務改革モデル | business process reform model | | フェーズ I のアウトプット。業務システム改革モデルを実現するために、業務要求と業務課題から業務機能のあるべき姿 (To-Be) をしめたモデルのこと。ビジネスモデルの最下のサブモデルであり、ビジネスプロセスモデルの最上位のプロセス改革モデルへのインプット | 業務システム改革モデル |
| き | G 業務改革実現要求 | | | フェーズ II のレベル 2 プロセス分析において、業務改革モデルの実現のための CSF や根本原因を特定した後、レベル 3 プロセス設計において、その解決策を設計したもの。 | |
| き | G 業務改革実現モデル | | | ビジネスプロセスモデルの最上位のサブモデル。レベル 2 プロセス (業務機能) 単位に、業務改革実現要求を集約したもの。これがこれがビジネスプロセスモデルの最上位のサブモデルとなる。業務改革モデルとの違いは、共通管理・支援のための Enable プロセスも意識したものであること。 | |
| ふ | G 業務改革施策 | | | 業務要求と業務課題、即ち、業務改革モデルの実現案を集約したもの。まだプロセス分析とプロセス設計を完了していない構想レベルのもの。業務改革構想書には、この業務改革施策を記述して、そのイメージをしめす。 | |
| き | 業務課題 | business challenges | 業務上の解決すべき課題のこと。戦術レベル (レベル 2)、およびプロセスレベル (レベル 3)、アクティビティレベル (レベル 4) の 3 種類 | GUTSY-4 では、戦術レベルの業務課題の引き出しのための業務課題インタビューシートがある。 | |
| き | 業務機能ドメイン | business functional domain | 経営機能ドメイン内の業務機能領域をしめたもの。プロセス階層レベルでは、戦術レベル (レベル 2) に位置する。たとえば、見込生産と受注生産は、生産として同一経営機能ドメインではあるが、業務機能ドメインとしては別々のものになる。 | | |
| き | 業務システム | | 業務システムは、経営システムの中核に位置づけられ、「人・組織」、「業務プロセス」、「IT システム」が有機的で密接な関係をもつ三位一体の仕組み。 | | |
| き | 業務シナリオ | | ⇒ C60-10-30: 業務の特定の目的を達成するための業務のパターン。複数の業務プロセスを一連の手順としてくくった業務フローとして詳細が記述され、かつ実施される。 | | |
| き | 業務フロー | | 業務シナリオの実施の手順を図で示して、実施すべき業務プロセスを「目で見える」ようにしたもの。 | | プロセス図 |
| き | 業務プロセス | | → ビジネスプロセス | | ビジネスプロセス |
| き | 業務要求 | | → IT ビジネス要求 | | IT ビジネス要求 |
| き | 金メッキ要求 | | 業務上それほど重要でないユーザ要求。 | | |
| く | クロスファンクショナルチーム | Cross Functional Team | プロジェクトが部門や組織機能の境界を超えたチームメンバーによって組織化されること。例. TQM | | CFT |
| け | 経営機能ドメイン | management functional domain | 生産、販売・マーケティングなどの経営機能の領域をしめたもの。M. ボーターのバリューチェーンの例がある。プロセス階層レベルでは、経営機能レベル (レベル 1) に位置する。 | | |
| け | 経営機能別戦略 | management functional strategy | 個別の経営機能ドメイン (レベル 1) における戦略。例) 物流戦略、生産戦略 | | |
| け | 経営システム | | 経営目標を達成する経営を行う仕組みの全体であり、企業の外部環境と密接な関係を持つ。 | | |
| け | 現状の調査・記述 | | モデリングの対象について、その現状を調査して、メタモデルに沿って抽象化して、正確にもれなく記述すること。「現状の調査・記述」によって作成するモデルを現状記述モデルという。 | | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|-----------------|-------------------------|---|--|--------------------------|
| こ | 構造化 | ● structuring | 階層構造を持つシステムにおいて、構造化とは、上位の機能を下位の機能にもれなく要素分解するだけでなく、その機能をより詳細化して十分なものにする。この構造化をMECEに行わないと、上位階層のモデルが途中で途切れてしまい、下位階層のモデルに展開できないことになる。 | 構造化技法 ①プロセス:レベル0～5 ②Why-What-How | |
| こ | 構造化技法 | | 一般的には、建造物やプロジェクトWBSは、上位から下位へと構造化する。 ・建造物:各部分、各作業工区、各対象物、作業要素、作業 ・プロジェクトWBS:フェーズ、ワークパッケージ、アクティビティ、タスク | GUTSY-4が利用している構造化技法 ①事業戦略:KGI-CSF-KPI(QCTS) ②プロセス機能:レベル0～4(プロセス参照モデル) | |
| し | システム思考 | system thinking | 対象を一つのシステムとして捉えて、全体の中の部分の相互関係を把握しながら思考すること。これに対して、部分だけを捉えて思考することをスナップショット思考という。 | | |
| し | 事業戦略 | business strategy | 事業戦略は事業目標を達成するために選定された手段となる。事業戦略は複数の経営機能別戦略の組合せとなる。 | | |
| し | 事業目標 | business goal | 事業として達成すべき目標。上位、中位、下位目標というように構造化できる。 | GUTSY-4では、サプライチェーンに関する事業目標は、SCORメトリクス(パフォーマンス評価指標)によって、レベル1から3に構造化する | |
| し | 事業目標モデル | business goal model | 事業目標を記述、分析、設計、すなわち定義するのが、事業目標モデリングであり、記述されたものが事業目標モデル。 | | |
| し | 自動化 | ● automation | 従来は人間が行っていたビジネスプロセスについて、これを自動化して省力化・効率化しようという目的によるITシステムの利用方法。その効果は「効率化」と表現される。初期のITシステムの多くは、自動化を目的として導入された。 | | |
| し | G 詳細レベルIT要求 | | | レベル5プロセスからITユーザ要求を引き出したもの。したがって、概要レベルIT要求よりも詳細になっている。 | 詳細レベルITユーザ要求 レベル5IT要求 |
| し | 情報化 | ● informatization | 意思決定のアウトプットを効果的なものにするために、有益な情報を提供しようという目的によるITシステムの利用方法。 | | |
| し | G 情報エンティティモデリング | | | 情報エンティティをモデリング、定義すること。 GUTSY-4では、フェーズⅢにおいて、モデリングの結果をインプット・アウトプットに作成し、フェーズⅣで詳細設計の結果から情報エンティティ定義書に作成する。 | |
| し | G 職務記述書 | | | ビジネスプロセスを職務でくくって、特定の要員が担当し遂行できるように、これに必要な能力を記述したもの。 | |
| し | G 主要課題 | key business challenges | | 業務要求および多くの部門から出た業務課題、あるいは複数の業務課題の原因となっている業務課題。フェーズⅠでは、フィージビリティスタディを短期間で行うため、主要課題に絞ってプロセス改革の構想を作成する。 | |
| し | 詳細化 | | 対象を構成している個々の要素について、さらに詳細にしていく作業のこと。プロジェクトWBSでは、組織や作業単位にマッピングする。 | GUTSY-4が利用している詳細化技法 ①業務改革、プロセス改革:5～6個のプロセス改革区分 ②IT要求:5W2H、8W3H ③ルールや情報エンティティ:メタモデルに沿って | |
| す | ステークホルダ要求 | ● | 企業を構成する特定のステークホルダーや特定のステークホルダーのクラスのニーズについて表現した要求。そのステークホルダーにどんなニーズがあり、ソリューションとどのように関わるかを記述。[BABOK] | GUTSY-4でいうと、プロセス改革要求(詳細)に該当する。 | |
| せ | G セキュリティ管理方針 | | | セキュリティ管理に関するITシステム化方針。 | |
| せ | 設計 | | 根本的なCSFの実現策、および根本的な原因の解決策を設計すること。「設計」によって作成されるモデルを設計モデルという。 | | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|-----------------|--|---|--|-------------|
| せ | 戦術 | ○ tactics | 戦術は、戦略に対する実現手段を指す。すなわち、企業ならば、経営リソースをどのように運用して戦略を実現していくかとなる。プロセス階層では、レベル2に位置する。 | | |
| せ | 戦略 | ○ strategy | 企業が外部環境にどのように働きかけ、競争に打ち勝っていくかを決定すること。マクロ経済動向、人口統計動向、法制度・規制の動向などのマクロ環境とは異なり、ターゲット市場、商品・サービス、販売チャネルなどのタスク環境は、企業の戦略によってある程度のコントロールができる。プロセス階層では、レベル0に位置する複合的な戦略、およびレベル1に位置する経営機能別戦略とがある。 | | |
| せ | 戦略課題 | ○ strategic challenges | 事業戦略において、経営機能ドメインごとのCSFのこと。経営機能別戦略は、経営機能ドメイン上の複数の戦略課題を集約したもの。 | | |
| そ | 組織 | ○ | 一定の目的をはたすために編成された、人その他の経営リソースの特定の集合体のこと。組織は、たとえば営業本部、営業1部や営業管理部、営業1課、営業1課受注係のように階層的な構造を持っている。 | | |
| そ | G 組織改革企画書 | | | 組織改革について、目的、ロードマップ、改革後の組織モデル(概要レベル)、概算レベル(精度±10~20%)の費用・効果、この実現のためのプログラム計画、チェンジマネジメント計画や個別プロジェクト計画を取りまとめたもの。 | |
| そ | G 組織改革計画書 | | | 組織モデル(詳細レベル)の定義に関するプロジェクト計画。これには、詳細レベル(精度±5~10%)の費用の見積を含む。 | |
| そ | G 組織改革構想書 | | | 構想レベルの組織モデルを実現するための構想書。 | |
| そ | 組織モデル | ○ | 組織を目的、責任・権限や機能として抽象化したもの。 | GUTSY-4では、組織モデルのメタモデルとして、目的、責任、権限、業務機能、業績評価指標、組織形態などを定義している。 | |
| そ | G 組織モデル(構想レベル) | | | 本部や部といった、大きな単位の組織モデル。階層レベルでは、レベル2に位置する。 | 構想レベルの組織モデル |
| そ | G 組織モデル(概要レベル) | | | 課といった単位の組織モデル。階層レベルでは、レベル3に位置する。 | 概要レベルの組織モデル |
| そ | G 組織モデル(詳細レベル) | | | 課の中の係といった単位の組織モデル。階層レベルでは、レベル3に位置する。 | 詳細レベルの組織モデル |
| そ | G ソフトウェア開発・導入方針 | | | ソフトウェア開発・導入に関するITシステム化方針。これには、システム開発・導入形態(所有方式、調達方式)、システム開発方法論、開発体制方針、開発環境と支援ツール、開発標準・開発規約など | |
| そ | ソフトウェア品質属性要求 | | 非機能要求の一部となる、ソフトウェアの品質属性に関する要求。可用性、効率性、柔軟性、完全性、相互接続性、信頼性、堅牢性、使用性などの特性がある。 | | |
| て | G ソフトウェアモデル | | | フェーズIVにおいて構築されたITシステムを広義のソフトウェアモデルという。 | |
| そ | ソフトウェア要求仕様 | ○ software requirements specifications | IT要求を具体的にどのようにソフトウェアで実現するかを決定した仕様であり、ソフトウェアモデルの一番最初のモデルとなる。しばしばシステム要件と呼ばれる。この定義は、選定したITソリューションに依存するITシステム分析(要件定義)の工程で行われる。 | | システム要件 |
| そ | ソリューションアプローチ | ○ solution approach | ビジネスニーズを満たすため新しい能力を獲得・創出するためのアプローチ。ソリューションコンポーネント単位に、該当ソリューションのデリバリー方法を記述する。同時に、前提条件、制約条件、実現可能性も明確にする。 | プロセス改革要求(概要、レベル2)やプロセス改革要求(詳細、レベル3)のこと。 | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|-------------------|--|--|--|--------|
| そ | ソリューションコンポーネント | ○ solution component | ソリューションコンポーネントの例:ソフトウェアアプリケーション、Webサービス、ビジネスプロセス、ビジネスルール、ITアプリケーション、アウトソーシング、インソーシング、組織改正、職務の見直しなど | プロセス改革区分の考え方と同じ。 | |
| そ | ソリューション要求 | ● | ビジネス要求とステークホルダー要求に適合するソリューションの特徴についての記述。機能要求と非機能要求がある。 ソリューションコンポーネント:ビジネスプロセス、ビジネスルール、組織改正、職務の見直し、ITアプリケーション、Webサービスなど[BABOK]。 | GUTSY-4では、プロセス改革要求(詳細)が構造化された、アクティビティレベルのビジネスプロセスモデルに対する要求。ITとは直接に関係のない非IT、およびITに対するものがある。 | |
| ち | 抽象化 | ● | 『対象のある側面・性質を突き離して、把握すること』。この際に、その他の側面・性質を排除することを捨象という。抽象化(モデリング)の際に作成されるのがモデルである。ある側面・性質を規定するのがメタモデルとなる。 | | モデリング |
| ち | 超高速開発ツール | | プログラミングにおいてコーディング作業を省略するためのツール。たとえば、PEXA、GeneXus、Wagbyなど。①コード生成型、②実行エンジン型、③業務モデル型、の3つに層別できる。 | | |
| て | 定義 | | モデルについて、現状を調査・記述し、CSFや根本原因を分析し、最終的に解決策を設計する、この全体ステップを「定義する」とい | | |
| て | 定型的ビジネスプロセス | typical, or routine | 処理手順やルール、アウトプットや終了条件が予め固定されているビジネスプロセス。たとえば、売上や売上原価など財務報告に関係するビジネスプロセス。 | | |
| に | トップダウンアプローチ | ○ top-down approach | 上位の目的や機能を段階的に下位階層に落とし込んで設計していく手法。 | | |
| ひ | 人間系プロセス | human process or human-related process | 業務プロセスのうち、業務特有のITを利用しないもの。電子メールやインターネットなど共通的なITは利用する。 | | |
| ひ | 非機能要求 | | 機能以外に必要とされる、性能目標、可用性、セキュリティなどの特性。また、ソフトウェアによって実現される使用性(ユーザビリティ)などの特性もある。 | | |
| ひ | ビジネスアナリシス | ● business analysis | BABOK3.0での定義:「ニーズを定義し、価値のあるソリューションをステークホルダーに推奨し、組織変革を可能にする実践」 | 事業戦略を実現し、課題を解決すること。 アウトプットは、プロセス、ルール、組織、人、ナレッジなど。 | |
| ひ | ビジネスアナリスト | ● business analyst | ビジネスアナリシスを実践する人達。 IIBAでは、4つのレベルに区分。 ①エントリーレベルBA、②ジュニアBA、③インターメディアイトBA(CCBA)、④シニアBA(CBAP) | | BA |
| ひ | ビジネスプロセス | ● business processes | モノや情報からなる入力に対して、資源(モノ、情報、知識)を利用して価値を付加して、モノや情報からなる出力を生成する活動のこと。基本的にはWBSと同じであるが、ビジネスプロセスは定常的であることの特徴がある。 | | 業務プロセス |
| ひ | ビジネスプロセスモデリング | business processes modeling | ビジネスプロセスを調査・記述、分析、設計する、すなわち抽象化して定義することがビジネスプロセスモデリングであり、記述されたものがビジネスプロセスモデルとなる。 | | |
| ひ | ビジネスプロセスモデル | business processes models | ビジネスプロセスをモデリングしたもの。 | GUTSY-4では、①レベル2の業務改革実現モデル、②レベル3のプロセス改革モデル(プロセス)、③レベル4のプロセス改善モデル(アクティビティ)、④レベル5のプロセス実行モデル(タスク)、という4つの階層のサブモデルがある。 | |
| ひ | ビジネスプロセスモデルのメタモデル | | ビジネスプロセスモデルについてのメタモデル。このメタモデルにしたがって、個々のビジネスプロセスモデルの機能を記述する。たとえば、ミドルレベルのビジネスプロセスモデルでは、プロセス構成要素がメタモデルとなる。 | | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|------------------------------------|---|---|--|---------|
| ひ | ビジネスモデリング | business medeling | ビジネスモデルを調査・記述、分析、設計する、すなわち抽象化して定義することがビジネスモデリングであり、記述されたものがビジネスモデルとなる。 | | |
| ひ | ビジネスモデル | business medel | 事業戦略のように、顧客にどのような価値を提供して、競争相手に打ち勝つかを記述した対外的なモデル。そして、これを企業としてどう実現するかの対内部のモデルがある。 | GUTSY-4では、①事業戦略という顧客価値提供モデル、②経営機能に対する戦略課題からなる業務システム改革モデル、③業務機能に対する業務要求という業務改革モデルの3種類を定義する。 | |
| ひ | ビジネスモデルのメタモデル | | ビジネスモデルについてのメタモデル。 | GUTSY-4では、6W2Hにしたがって、ビジネスモデルを記述する。 | |
| ひ | ビジネス要求 | ● business requirements | 企業の目的および目標またはニーズを概要レベルで表現した要求。プロジェクトを開始した理由、プロジェクトが達成しようとする目標、成功度を測定するメトリクスなどを記述。 [BABOK]。 | GUTSY-4でいうと、事業戦略が構造化された業務要求に該当する。 | 業務要求 |
| ひ | ビジネスルール | ● business relues | ビジネス活動の中で、組織や個人が意思決定を行うために準拠する基準。基準としては、形式知もあれば暗黙知も含まれる。 ・意思決定の種類⇒業務ルールの目的別タイプ ・準拠する⇒業務ルールの構造タイプ | | 業務ルール |
| ひ | ビジネスルールモデリング | business relues modeling | ビジネスルールをモデリング、定義すること。 | GUTSY-4では、フェーズⅢにおいて、モデリングの結果を業務ルール説明書に作成し、フェーズⅣで詳細設計の結果から業務ルール定義書に作成する。 | 業務ルール定義 |
| ひ | 非定型的ビジネスプロセス | atypical, or nonroutine | 処理手順やルール、アウトプットや終了条件が予め固定されておらず、柔軟かく柔軟なビジネスプロセス。たとえば、意思決定に関するビジネスプロセス。 | | |
| ひ | 人 | | 人は、それが持つ能力を提供してビジネスプロセスを実行するという、組織を構成する最も重要な要素である。 | | |
| ひ | 人の能力 | | 対象ドメインに対する「人の能力」は、個人が持つ経験、適性、訓練などによるスキル、およびそのスキルレベルによって表現できる。 ・経験: 実務に従事した経験によって得られた知識や技能のこと。 ・適性: 性格や性質が対象ドメインに適していること。 ・訓練: 対象ドメインについて、教育し、継続的に練習させ、習得させること。 | | |
| ひ | 標準化 | ○ standardization | ビジネスプロセスを実行する個人によってばらつきが出ないように、その処理手順、インプットやアウトプット、業務ルールなどを統一化、単純化、秩序化すること。 | | |
| ふ | ファシリテーション | ○ facilitation | 人の思考などを容易にすること。すなわち、問題の特定、問題の解決策、これらへの合意形成を「促進」すること。 | | |
| ふ | フェーズ | phase | プロジェクト全体を構成する各段階や工程を呼んだもの。 | | |
| ふ | G フェーズⅠ 戦略要素の構造化による業務改革構想フェーズ | Process reform conception phase by structuring strategic | フェーズⅠとフェーズⅡでもって、JUASでいう「源流」を構成する。 | 別名称:「ビジネスモデリング」 成果物:「業務改革施策」を含む「業務改革構想書」 | |
| ふ | G フェーズⅡ プロセス上位設計によるプロセス改革企画フェーズ | Process reform program phase by designing upper processes | フェーズⅠとフェーズⅡでもって、JUASでいう「源流」を構成する。 | 別名称:「ビジネスプロセスモデリング(上位)」 成果物:「プロセス改革要求」を含む「プロセス改革プログラム計画書」 | |
| ふ | G フェーズⅢ プロセス中位設計によるプロセス改革計画フェーズ | Process reform plan phase by designing middle processes | JUASでいう「超上流」に該当する。 | 別名称:「ビジネスプロセスモデリング(中位)」 成果物:ITへのレベル4要求含む「プロセス改革プロジェクト計画書」 | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|-------------------------------------|---|--|---|-------------|
| ふ | G フェーズIV プロセス下位設計によるプロセス改革実施フェーズ | Process reform execution phase by designing lower processes | | 別名称:「ビジネスプロセスモデリング(下位)」と「ソフトウェアモデリング」 成果物:ITへのレベル5要求を含む「プロセス改革プロジェクト計画書(ベースライン)」、ソフトウェアモデリングによるソフトウェアモデル | |
| ふ | G フェーズV プロセス改革運用と継続的改善フェーズ | | | GUTSY-4で未開発のフェーズ(これから開発予定)。 | |
| ふ | G プラットフォーム構成方針 | | | プラットフォーム(IT資源)に関するITシステム化方針。これには、所有方式、処理方式、技術標準などを含む。 | |
| ふ | フレームワーク | | 先人のナレッジが入ったMECE(だぶらず、もれず)な論理思考ツール。 例) マーケティングの4P、8W2H | GUTSY-4には様々なフレームワークFWを利用した技法・ツールを内蔵している。FWが一つだと、品質は1σ=68.26%。二つ組み合わせると、品質は2σ=95.46%に大きく向上する。 | |
| ふ | プログラム | program | 全体の目的を達成するため、複数のプロジェクトに分割し、その関係や結合を最適化しようという活動。これには複数のプロジェクトを含む。 | | |
| ふ | G プログラム計画書 | program plan | | プロセス改革要求を実現するために、複数のプロジェクト計画書を含むものがプログラム計画書。結果的に、プロセス改革ロードマップをより詳細化したものになる。 | |
| ふ | プロジェクト | project | 特定テーマの問題解決を一定の期間と不確実性のもとに目指す活動 | | |
| ふ | プロジェクト憲章 | project charter | ビジネスニーズ、新しいプロダクト、要求事項を満たす所産などを文書化するプロセス。通常はプロジェクト外部でプロジェクト憲章が作成される。 | 構成:①目的、②ビジネスニーズ、③ステークホルダのニーズ・期待、影響、④アウトプット、⑤アウトプットの特長、⑥成果物と要素成果物 | |
| ふ | G プロジェクト詳細計画書 | detailed project plan | | プログラム計画書の中のプロジェクト計画書について、フェーズIIIにおいて、選定したITソリューションをベースとして詳細化したもの。 | |
| ふ | プロジェクトライフサイクル(PLC) | ○ project life cycle | 大規模プロジェクトを複数のフェーズに分割して、「投資と効果の見積精度を段階的に向上させ、リスクを減少させる」というNASAの経験則を説明したもの[参考:C90-01-01]。 プロジェクト計画の段階的詳細化は、プロジェクトライフサイクルによって実現される。通常は、構想、基本計画(企画)、実行計画(計画)、開発・導入、運用というプロジェクトフェーズに分割される。 | GUTSY-4のプロジェクトライフサイクルは、フェーズI(構想)、フェーズII(企画)、フェーズIII(計画)、フェーズIV(開発・導入)となる。 フェーズIではフェーズIIの、フェーズIIではフェーズIIIの、フェーズIIIではフェーズIVのプロジェクト憲章のベースを作成することになる[M800-212A]。 | |
| ふ | プロセス | processes | プロセスは、①組織的に実施するpublicなもの、②個人的に実施するindividualなもの、2種類がある。①は、よくビジネスプロセスと呼ばれる。②は、よくWBSと呼ばれる。「プロセス」という意味「BABOKはプロセスではない」と言われるが、この場合は②を指している。 | | ビジネスプロセス |
| ふ | G プロセス改革課題 | | | レベル3プロセス分析において、レベル3プロセス上にマッピングされたレベル3業務課題のこと。この解決策を設計したものがプロセス改革要求となる。 | レベル3業務課題 |
| ふ | G プロセス改革企画書 | | | フェーズIIのアウトプット。プロセス改革要求の実現について、目的、ロードマップ、プロセス改革後のレベル3ビジネスプロセス、概算レベル(精度±10~20%)の費用・効果、この実現のためのプログラム計画や個別プロジェクト計画を取りまとめたもの。 | 業務プロセス改革企画書 |
| ふ | G プロセス改革計画書 | | | フェーズIIIのアウトプット。プロセス改革要求を反映したレベル4ビジネスプロセスについて、そのプロジェクト計画、詳細レベル(精度±5~10%)の費用・効果をしめたもの。 | 業務プロセス改革計画書 |
| ふ | G プロセス改革区分 | process reform category | | プロセス改革をより具体化して明確に設計するための区分(レベル3プロセス設計で検討)。 6つの改革区分:設備・プロダクト、組織、業務ルール、業務プロセス機能、人、情報とITシステム。 BABOKにおける「ソリューションコンポーネント」に該当する。 | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 | |
|---|----|--------------|------------------------------|--|---|----------------------|
| ふ | G | プロセス改革要求 | process reform requirements | | フェーズⅡのアウトプット。レベル3プロセス分析によるプロセス改革課題について、レベル3プロセス設計において、その解決についてプロセス改革区分間の整合性が取れるように設計したもの。 | 業務プロセス改革要求 |
| ふ | G | プロセス改革モデル | process reform model | | フェーズⅡのアウトプット。ビジネスプロセスモデルのサブモデル。プロセス改革要求をレベル3プロセス単位の集約したもの。 | |
| ふ | G | プロセス改革ロードマップ | process reform road map | | プロセス改革モデルの実現について、複数年にわたる段階的なプロセス改革のステージとして取りまとめたもの。 | |
| ふ | G | プロセス改善課題 | | | レベル4プロセス改善課題の抽出において定義されたもの。 | レベル4プロセス改善課題 |
| ふ | G | プロセス改善区分 | process improvement category | | プロセス改善をより具体化して明確に設計するための区分(レベル4プロセス設計で検討)。7つの改善区分:業務ルール、情報エンティティ、ツール(業務ルールと情報エンティティの組み合わせ)、プロセス管理(レベル5機能定義、意思決定の場、プロセス連携)、パフォーマンス管理、ロール管理、業務定義 | |
| ふ | | プロセス階層レベル | ● process hierarchical level | もともとはプロセス参照モデルのプロセス階層レベルのことであるが、ISO CIMモデルではこれを拡張してレベル0~7までを定義。プロセスにマッピングされる要求や課題は、階層レベルが上位なほど大きい。 | GUTSY-4では、プロセス階層レベルをプロセス粒度として利用する。 <ul style="list-style-type: none"> レベル0 事業戦略 レベル1 経営機能別(戦略課題) レベル2 戦術(業務要求、業務課題) レベル3 ハイレベル(上位)プロセス(単にプロセスともいう) レベル4 ミドルレベル(中位)プロセス(アクティビティともいう) レベル5 ローレベル(下位)プロセス(タスクともいう) IT系の場合は、トランザクション レベル6 アクションともいう IT系の場合は、コンポーネント(各画面) レベル7 人の動作 | 階層レベル 業務プロセス階層レベル |
| ふ | G | プロセス構成要素 | ○ process components | | プロセスを定義するための要素、すなわちメタモデル。GUTSY-4では5種類:プロセス機能、インプット、アウトプット、コントロール、担当組織。 <ul style="list-style-type: none"> インプット1:プロセスへの指示となる情報エンティティ インプット2:プロセスへの制約となるエンティティ(情報、プロダクト、リソース) アウトプット1:プロセスの成果物となる情報エンティティ アウトプット2:プロセスにて生成・消費したエンティティ(プロダクト、リソース) | 業務プロセス構成要素 |
| ふ | | プロセス参照モデル | ○ process reference model | ビジネスプロセスを記述、分析、設計する際に参照するための標準的なモデル。サプライチェーンに関してはSCORとESCORTがある。プロセス参照モデルは、 <ul style="list-style-type: none"> ビジネスプロセスに関する世界のナレッジを集めたもの ビジネスプロセスの共通的なプロセス機能、インプットやアウトプット、業務ルールなどを階層的に定義したもの ビジネスプロセスの調査や分析をする際に、仮説や「鏡」として利用 | | 業務プロセス参照モデル |
| ふ | G | プロセス詳細記述書 | | | プロセスの機能について、定められたプロセス構成要素に沿って詳細に記述したもの。 | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|-------------|-------------------------------|---|---|----------------------|
| ふ | プロセスフロー | business process flow | ビジネスプロセスモデル(業務プロセス)の順序関係をフロー図でしめしたもの。プロセス図ともいう。階層レベル別のビジネスプロセスモデルに対応したプロセスフローが作成される。しかし、個々の業務プロセスの機能を記述したものではない。 | | 業務プロセスフロー プロセス図 |
| ふ | プロセス粒度 | process granularity | →プロセス階層レベル | | プロセス階層レベル |
| ふ | 分析 | | 何が根本的なCSFや原因であるかを特定すること。「分析」のために作成するモデルを分析モデルという。 | | |
| ほ | ボトムアップアプローチ | ○ bottom-up approach | 下位階層の課題を発見、それを設計、改善することで、上位の目的や機能を達成しようという手法のこと。下位レベルの改善に留まりが | | |
| め | メタモデル | ○ meta-model | メタモデルとは、『モデルを記述するモデル』、『モデル構成要素』、『モデルを規定するためのモデル』。たとえば、ビジネスプロセスモデルに対するメタモデルはプロセス構成要素となる。メタモデルが不足すると記述されたモデルが不十分なものになってしまう。 | | |
| も | モデリング | ○ modeling | 対象をメタモデルに沿って記述すること。たとえば、ビジネスモデリング、ビジネスプロセスモデリング、IT要求モデリング、データモデリング。 現状の調査・記述、分析、設計というステップがある。ただし、現状プロセスを調査・記述するだけの場合でも、ビジネスプロセスモデリ | | 定義 |
| も | モデル | ● model | モデルとは対象を抽象化して表現したもの。 対象の種類によって、ビジネスプロセスモデル(業務プロセス)、要求モデル、ソフトウェア要求仕様モデル、データモデルなどがある。また、目的によって、記述モデル、分析モデル、設計モデル、合意形成モデルなどがある。 | | |
| ゆ | 問題 | ○ | 悪影響が既に顕在化しているところのテーマ。悪影響がまだ顕在化していないものは課題という。 | | |
| ゆ | ユーザ | ○ user | ITシステムを利用する業務担当者とマネジメント層。ユーザは、情報参照ユーザやパワーユーザなどの複数のユーザクラスに分類される。ユーザ要求定義はこのユーザクラスごとに行う。 | | ユーザー |
| ゆ | ユーザクラス | | ITシステムのユーザーを使用目的や頻度でグループ化したもの。ユーザークラスによって、ITへのユーザ要求は異なってくる。 | | ユーザークラス |
| ゆ | ユーザ要求 | ○ user requirements for IT | 利用者が実際にITを利用して行う必要がある業務機能のこと。 | | ITユーザ要求 ITへのユーザ要求 |
| ゆ | ユーザ要求(概要) | ● | ITシステム調達のための「粗過ぎず、細か過ぎない」要求モデルのこと。これをRFPに記載してITベンダーからの詳細レベル(精度±5~10%)の見積りを得る。 | GUTSY-4では、フェーズⅢにおいて、レベル4ビジネスプロセス(アクティビティ)から定義する。 | 概要レベルのIT要求モデル |
| ゆ | ユーザ要求(詳細) | ● | ITシステム導入のための「ある程度、詳細な」要求モデルのこと。これより、IT導入実行計画書のためのベースライン見積り(精度±5%) | GUTSY-4では、フェーズⅣにおいて、概要レベルのIT要求モデル、またはレベル5ビジネスプロセス(タスク)から定義する。 | 詳細レベルのIT要求モデル |
| ゆ | ユーザー要求の引き出し | | 要求工学では、要求はヒアリングでなく、質問や観察によって引き出すという立場を取る。 | | ITへのユーザー要求の引き出し |
| ゆ | ユーザ要求の優先順位 | priority of user requirements | 全てのユーザ要求について、たとえばビジネス要求との関連度など、一定の評価基準によって優先順位を付ける。この優先順位(含む優先順位付けルール)によって、ユーザ要求のスコープコントロールが可能になる。 | | |
| よ | G 要員能力開発計画 | | | 組織改革計画に基づいて、人の職務能力や技術・技能の向上のための教育・訓練を具体的に計画したもの。 | |
| よ | 要求アナリスト | requirements analyst | 要求工学において、ユーザーでない第三者として、要求定義プラクティスを担当する者。 | | |
| よ | 要求工学 | Requirements Engineering | ITへの要求について、科学的に定義するためのプロセス。要求開発(要求定義プラクティス)と要求管理から構成される。 | | |

| 区 | 用語 | (英語/日本語では) | 一般用語定義 BABOK他 | GUTSY-4での定義 一般的用語と異なる場合だけ | 同義語 |
|---|---------------|-----------------------------------|---|---|--------------|
| よ | G 要求定義書 | requirements definition documents | | 定義したIT要求、ビジネス要求やユーザー要求、機能要求や非機能要求だけでなく、要求の発生源、要求の優先順位や受入適合基準などを整理、記述したもの。 ・レベル4:最初に定義される要求定義書。 ・レベル5:レベル4要求定義書を構造化したもの。 | IT要求定義書 |
| よ | 要求定義プラクティス | | 要求工学では、ユーザの代表者から要求を引き出して、そして分析、仕様作成、妥当性確認というフェーズによって要求定義を行う。 | | |
| よ | 要素分解 | decomposition | 対象を構成している要素を分解していく作業のこと。 プロジェクトWBSでは、各要素成果物をそれを構成する要素に分解していく。 | GUTSY-4が利用している要素分解技法 ①プロセス機能:プロセス参照モデル(レベル1から4へ) ②業務イベント分解:業務イベント法(レベル4から5へ) ③IT要求:Why(目的)-What(IT要求)-How(IT要求仕様) | |
| り | リポジトリ | repository | 仕様・デザイン・ソースコード・テスト情報・インシデント情報など、ITシステムの開発プロジェクトに関連するデータの一元的な貯蔵庫を意味する。 | | |
| れ | G レベル2プロセスモデル | | | 階層レベル2で記述されたビジネスプロセスモデルの最上位のサブモデル。複数のレベル3ビジネスプロセスを包含する。 | 業務改革実現モデル |
| れ | G レベル3プロセスモデル | | | 階層レベル3で記述されたビジネスプロセスモデルのサブモデル。複数のレベル4ビジネスプロセスモデルを包含する。 | プロセス改革モデル |
| れ | G レベル4プロセスモデル | | | 階層レベル4で記述されたビジネスプロセスモデルのサブモデル。複数のレベル5ビジネスプロセスモデルを包含する。 | プロセス改善モデル |
| れ | G レベル5プロセスモデル | | | 階層レベル5で記述されたビジネスプロセスモデルのサブモデル。 | プロセス実行モデル |
| れ | G レベル4IT要求 | level-4 IT requirements | | レベル4プロセスに構造化されたビジネス要求、および引き出したユーザ要求を合わせたもの。これがIT要求(概要レベル)となる。 | 概要レベルITユーザ要求 |
| れ | G レベル5IT要求 | level-5 IT requirements | | レベル4IT要求をレベル5プロセス上のITへの要求に構造化したもの。これがIT要求(詳細レベル)となる。 | 詳細レベルITユーザ要求 |